

思い返せば、五年前の熊本地震は、ここ熊本に甚大な被害を与えました。地震のみならず、災害は常に突然です。昨年は県南地域に大水害があり、いまだ困難のなかにいる方々がおられます。今年もまた梅雨が来るたびに、台風が来るたびに、恐れ、不安になることの繰り返しですが、人々の努力は始まっています。

人は、さまざまなものから学びます。それが人の向上心というものであり、素晴らしさです。歴史上、人は災害からも学び、克服し、現在の国や地域の姿を築いてきました。人の努力は、人の価値を証明するものです。ただ、災害による被害は一向になくなりません。天災は忘れたころにやってくるという台詞で有名な物理学者の寺田寅彦は、人は災害から学ばない、何度同じ災害に会っても決して利口にならぬことは歴史が証明する、と述べ、防災対策が後手に回るのは、天災がまれにしか起こらないので抜本的な対応を先送りしてしまうからである、と表現しています。しかし、今や異常気象に伴う自然災害はまれではなく、寅彦の観察どおりであってはなりません。

天災とともに真剣に取り組みたいものが感染症への対応です。ほぼ一年となる新型コロナは、ワクチンによって解決すべき問題ではありません。新たな感染症が今日と同じ事態を繰り返すことは容易に想像がつかます。私たちは、教訓を得ておかななくてはなりません。寅彦から人は感染症からも学ばない、と言われてはなりません。人類が学ばない集団であってはなりません。私たちの知性が試されています。

今回のコロナ感染症は、世界中で民主主義が未成熟であることを示しました。市民の行動によって感染症を抑制できない現実を示した点で、世界中の民主主義は実現していないと考えます。いわゆる先進国であっても、民主主義とは自分本位であること、単純に自由であることと勘違いしてはいないでしょうか。社会の不満や危機などを強制や支配で抑え込む手法に必ずしも反対しませんが、民主主義の理想は自発的、自立的なものでありましょう。夏目漱石は、個人に与えられている自由が社会の安定に基づき、平和でなければ自由も個人も制限されることを説いています。民主主義とは市民の賢明な判断と行動で安定した社会を築くことであり、人々の責任が伴うことを忘れてはなりません。法律により行政権限を強化していくことに無頓着であることは、民主主義の本質を失う道であることに気づくべきでしょう。

この際、人はどう生きるべきか、この国はどうあるべきか、と考えてみませんか。行動制限の中でも考えることはできます。そもそも人類の行動原理はモビリティです。植物のように自力で行動できないものたちを尻目に人類は移動を謳歌します。だから、移動を制限されると人々の不満は募ります。しかし、人は、時に立ち止まって考えることも必要です。コロナのスマッグで先行きが不透明となり、自国ファーストになりがちな現況ですが、地球は多種多様な自然や人々、文化の集まりです。私たちは世界への目配りを忘れてはなりません。健全な未来はダイバーシティを受け入れることから始まります。人類の偏狭な視野に未来が寄り添うことはないでしょう。人は、どんな人との付き合いを望むでしょうか。どのような人ならば友達でいたいと思うでしょうか。人と人との交流から想像すれば、私たちの国は

どうあるべきかと想像がめぐります。社会人となる皆さんにお願いします。どうか地球市民の志を持ってください。敬愛される人が持つはずの、健全で徳のある精神性を見倣い、敬われ愛される国であるように努め、多くの国や人々が交流したいと望むような国づくりを市民の一人としてはかろうとする意識を持ってください。

日本社会は科学技術立国を目指しています。Society5.0 と呼ばれる現代社会は IT の進化が社会のシステムを塗り替え、現実世界が変りつつあります。他の先端技術も加速度的に成果を挙げ、これまでの非常識が現実になりつつあります。車の完全自動運転は目前ですし、空飛ぶタクシーも実現するでしょう。多様なロボットが登場して人力の省力化も進みます。「機械を使えば何でもできる」が「ものづくり」の理想であり、社会の推進力です。近い将来、人の能力をはるかに凌ぐ AI により、社会はより便利で合理的な生活手段を手に入れることでしょう。そのとき、私たちは何を思うのでしょうか。

ものを作り出す能力は、人類に与えられた有難い本能です。人は技術革新に突き進む本能を持っています。テクノロジーは進化してこそのものであり、そこに未来社会の基盤があります。ただ、世の真理として、人はテクノロジーほどに進化しません。人は自身に運命づけられた一生のなかでしか向上し得ず、無限に進化する可能性を保持していません。古典文学に描かれる人々は、ほとんど現代人と同じ苦悩のなかで生きており、進化していません。人類が自分たちの存在意義を見失わないためにも、テクノロジーと人とのギャップを埋めるもの、つまり、先端を走るテクノロジーと人の内面とをつなぐ理想、価値観、美意識といった思想のクリエイションが必要であると考えます。人生を生き抜くために、また、人間社会が安定的であるためにも、人を見つめる思想は問われ続けるべきものであると思います。

やがて何でもできる不自由のない世界が訪れたとき、人は幸せでしょうか。いろいろな人がいて、さまざまな考え方があるというダイバーシティからすれば、何でもできる不自由のない世界は必ずしも皆の幸せではないかもしれません。繰り返しますが、何かの拍子で結構ですから、どうぞ、人はどう生きるべきか、この国はどうあるべきか、と考えてみてください。納得できる答えを探してみてください。その足がかりになるとは思っていませんが、最後に、敬愛すべき宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」をもとに、私の詠んだ歌をみなさんに贈ります。賢治がまさかの「でくのぼう」でありたいと願った理由を、みなさんも考えてみてください。

迷ひなく賢治が詩<sup>うた</sup>に望みたる「でくのぼう」さへ人の幸せ

みなさんの卒業、修了という節目のこの日を、ご家族をはじめ、みなさんの幸せを願う方々と共に心から喜び、祝福いたします。

令和3年3月21日  
熊本県立大学 学長 半藤英明